



清風

令和6年3月25日
学校だより3月号②
羽村市立羽村第二中学校

「心を込める」

校長 清水 大史

桜の蕾も膨らみ、春の香りを感じます。3月19日（火）には、第51回の卒業証書授与式を挙行いたしました。また、本日の修了式をもちまして、今年度の教育活動を無事終えることができました。卒業式の式辞を紹介いたします。保護者や地域の皆様を始め、御支援いただきました全ての方々に、心を込めて感謝を申し上げます。

「卒業式の式辞より」抜粋

卒業生の皆さん、最上級生として後輩たちに最高のお手本を見せてくれて、ありがとう。体育大会では、正々堂々と全力を尽くす姿、みんなで応援し合う姿が印象的でした。音楽会では、圧巻の大迫力だった学年合唱の大地讃頌、思いが込められたクラス合唱が素晴らしかったです。ひたむきな姿に感動し、涙が溢れてきたことを思い出します。改めて、皆さんの凄さを実感しました。

これから、自立に向けて新たなステージへ挑んでいくことになります。上手くいかない時、迷った時に、思い出してくれたらと思う言葉を紹介します。それは、「大切なのは、どれだけ多くのことをしたかではなく、どれだけ心を込めたかです。」という言葉です。これはノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサという方の言葉です。解釈は様々ですが、私はこう考えます。

人にはできることと、できないことがあります。向き・不向きもあるでしょう。だから、無理をして多くのことをやろうとしなくても、自分にできることを、心を込めてやればよいのです。上手くいかない時、迷った時には、自分を振り返り、自分を見つめ直してみましよう。周りの意見を参考にしながらも、自分は、「何のために」、「誰のために」やりたいのかを大切に、心を込めてやることです。きっと、自分の目指す道が見つかり、希望が湧いてくるでしょう。

それでも希望が見えない時は、日常の些細なことを心を込めて丁寧にやってみましよう。だんだん楽しくなってきたり、他のことに情熱が湧いてきたりすることがあります。丁寧にやっていたら、誰かのためになっっていたりすることもあります。自分も周りも笑顔になれたら、きっと前向きな気持ちになるはずです。

皆さんは、自ら考え、仲間とともに工夫をしながら、課題を次々に解決してきました。心を込めて取り組んできたからこそ、達成感を感じ、周りの人に感動を与えてきたのです。まさに、心を込めた3年間でした。これからの人生でも、心を込めることを大切に、自分の未来、自分の幸せを掴んでいってください。「輝く未来」を祈っています。

第52回音楽会

3月8日（金）前夜の雪が残る中、第52回の音楽会がゆとりぎホールで行われました。本番までに音楽の授業で技術を習い、クラス練習で気持ちをそろえ、縦割り発表会で上級生が下級生に教えて、とたくさんの時間を使ってきました。指揮者や伴奏者は夏休みあたりから練習をしてきたことなのでしょうね。美術部も看板作成にたくさんの力を費やしてくれました。そして実行委員の人たちはクラスのために、学年のために、持てる力を発揮してくれました。そのおかげで音楽会は、聴いている保護者の方にも多くの感動が伝わったように感じました。特に3年生の学年合唱「大地讃頌」は圧巻で、誰もが「すごかった」と感じてもらえたことでしょう。

生徒の歌声を聴いて私たちは心を動かされ、感動という涙や笑顔が自然と生まれました。羽村二中生の力を感じた一日でした。雪の寒さも吹っ飛んでしまうくらいの素晴らしい音楽会でした。



第51回卒業証書授与式



前日の強風が収まり、寒さはありませんでしたが穏やかな雰囲気の中で卒業式が行われました。卒業式に参加した2年生は、明日から最上級生になるという自覚を高めたことでしょう。最後まで立派な3年生でした。あの3年生の背中を見て、追いつき、そして追い越してほしいと思います。

卒業生の今後の活躍と1・2年生のさらなる成長を期待し、願っています。

保護者の皆様へ

本年度、羽村二中の活動に協力くださりありがとうございました。おかげさまをもちまして1年間を終えることができました。新年度になり、保護者へのメール配信をマ・メールからマチコミメールに変更します。新年度になりましたらお知らせいたしますので、登録の協力をお願いいたします。